



日本西アジア考古学会 Japanese Society for West Asian

〒305-8571 茨城県つくば市天王台 1-1-1
筑波大学人文社会系歴史・人類学専攻 常木研究室
Address : c/o Prof. Akira Tsuneki, Faculty of Humanities and Social Sciences,
Doctoral Program in History and Anthropology, University of Tsukuba,
1-1-1, Tennodai, Tsukuba, Ibaraki, 305-8571, Japan
E-mail : office@jswaa.org
Fax : + 81-29-853-4432
Homepage : <http://jswaa.org/> Our Reference No. Date : 23 May 2014

シリアの文化遺産破壊と流出に対する声明

日本西アジア考古学会

2011年3月、北アフリカや中東諸国を席卷した「アラブの春」の余波はシリアにまで到り、未だ解決を見ないまま内戦状態で3年を迎えようとしている。内戦は、ますます激化し、日々、多くの人々の生命が奪われ、母国を去らざるを得ない人々は増加の一途を辿っている。人々は長引く内戦に疲弊し、生活を継続する困難さに直面している。この内戦の激化とともに平和の象徴となりうる文化遺産が無惨にも破壊され、さらに盗掘・強奪が頻繁におこなわれ、自らの基盤を否定しようとする行為が横行している。これは人々の心の中に存在する重要な柱が奪われていると言っても過言ではない。このようなシリアの文化遺産の置かれた現状に対して、日本西アジア考古学会は、怒りと憂いと願いを込めて内戦に関わる全ての組織に対して所信を表明する。

シリアの歴史は世界の中で非常に重要な位置にある。特に人類の拡散、農耕・牧畜の起源、都市の起源、宗教の起源、ヘレニズムの拡散、ローマの東方化、キリスト教の基盤、イスラムの勃興と成長など、人類が生み出したあらゆる技術も呼応しながら人類史上の重要な足跡を文化遺産の中に歴然と残し、将来に伝える

べく、多くの人々がそれらを守ってきた。この貴重な文化遺産は、シリアの人々が長きに渡る歴史の中で、並々ならぬ努力によって残し伝えてきた人類の資産である。それが、過去3年の間に破壊、盗掘、強奪の行為によって消失している。その行為は、シリア国内での対立が拡大する中でますます活発化し、より深刻化している。

シリアの内戦に関わる人々及び組織は、世界におけるシリアの文化遺産の重要性を認識し、尊ぶべきである。破壊や盗掘によって自らのアイデンティティを消し去っている現況に早く気付くべきである。その行為が今後のシリアや世界にとって取り返しがつかない状況に陥らせていることを理解するべきである。現在シリアの文化遺産が直面している問題は、人類史上最大の危機である。いつ終わるか分からない内戦状態の中で文化遺産が置かれている状況は深刻である。しかし、だれかが止めなければならない。内戦に関わる組織さらに個人個人が自らの遺産の価値を見出し、将来を開く資産として認識するならば、それらは保護できるはずである。

今後、内戦が終結し、シリアに安定した政治状態が戻るならば、現実に破壊行為の渦中にある文化遺産は、シリア復興のために大きな役割を果たすことになることを忘れてはならない。文化遺産はシリアが世界の人々と再び手を繋ぐ最良の場を生み出し、平和のシンボルにもなりうる。現状では爆撃や砲撃によって文化遺産が破壊され、また、シリア各地における文化財関係者の並々ならぬ努力にもかかわらず、この内戦状態に便乗した武装集団による組織的な遺跡の盗掘や歴史的記念物に対する強奪が未だ行われている地方もある。このような行為は今すぐ止められるべきである。このような現状を目にするシリアの良識ある人々の悲しみと心情はいかばかりか察してあまりあるものがある。

現在シリアで文化遺産の保護に従事する人々は食料や燃料の入手に困難な状態にありながらも将来へ文化遺産を継承すべく懸命にその任を務めている。このかけがえのない努力を無にすることのないよう、内戦に関わるシリア内外の全組

織に対して自らのアイデンティティの喪失を食い止めることを切望する。